

箱根火山を中心とする小田原・箱根ジオパーク構想

Odawara Hakone Geopark design around the Hakone volcano

平田 大二 [1]; 斎藤 靖二 [1]; 高橋 正樹 [2]
Daiji Hirata[1]; Yasuji Saito[1]; Masaki Takahashi[2]

[1] 神奈川県地球博; [2] 日大・文理・地球
[1] Kanagawa Pref. Mus. Natl. Hist.; [2] Geosystem Sci.,Nihon Univ.

小田原・箱根地域におけるジオパーク構想は、神奈川県西部の小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町、そして神奈川県の西湘地域県政総合センター、生命の星・地球博物館、温泉地学研究所で構成される「(仮称)小田原・箱根ジオパーク推進連絡会」において検討が進められている。

小田原・箱根周辺一帯は南部フォッサマグナ地域の一部を占めており、プレート境界における地殻変動や島弧と島弧の衝突の現象が陸域にあらわれている地帯として、地球科学的に世界から注目されている。また、その中心に位置する箱根火山については、1990年代入ってから多くの新しい事実が見出され、より新しい火山形成史が議論されるようになっている。それらは、国立公園地質リーフレット「箱根火山」(日本地質学会,2007)や、神奈川県立生命の星・地球博物館の調査研究報告書「箱根火山 - 箱根火山および箱根地域の新しい形成発達史」(2008)、同博物館の特別展図録「箱根火山 - いま証される噴火の歴史」(2008)にまとめられている。箱根火山は、古くから温泉地として知られ、温泉を楽しむ保養地・観光地として多くの人々に親しまれてきた。また、外輪山や中央火口丘群などの火山地形や大涌谷の噴気現象、多くの温泉場などは地球の営みを体感できる自然の博物館でもある。箱根火山は、まさに火山活動と火山地形の博物館といてよく、私たちの生活を支えている地質の意味を理解しながら、温泉をふくめて大地の恵みを楽しむジオツーリズムに最適の場である。また、富士箱根伊豆国立公園や県立の自然公園などにも指定されているように、豊かな自然環境にも恵まれている。さらに歴史的には、戦国時代に北条氏がこの地域を拠点として関東全域を統治し、江戸時代以降も小田原城を中心に城下町、宿場町として栄えた地域として有名であり、多くの史跡にも恵まれている。また、古くから交通の要衝であった本地域は交通網が発達している。このように、豊かで美しい自然環境、歴史・文化遺産等の魅力、良好な交通条件が相まって、本地域は世界から観光客が訪れる日本有数の観光地として古くから人々に親しまれている。本地域のとともに、その周辺の自然環境や人々の生活の面白さをふくめて、地質遺産を中心に保全・普及・地域振興を目的とするジオパークの活動に最適な地と言える。これら小田原・箱根地域におけるジオパークに関連した動向については、月刊地球「総特集 新しい箱根火山像とジオパーク」にまとめられている。

地質遺産と文化遺産の両方に恵まれている本地域においては、地質学的資源を地域の文化遺産との関わりの中で捉えるという視点での活動が可能であり、相乗効果によりそれぞれの価値を高めることが期待される。今後、ジオパーク構想の推進に向けて、本地域の魅力のアピールするとともに、地域へのPRや各ジオパーク資源の連携と融合など、課題の整理が求められている。